

歯ブラシ 環境包装

ヤマトエスロン 年1億本、植物由来



歯ブラシの包装材に植物由来のプラスチックを加える

えており、今後は取引先の許諾を得て増やしていく。土や海の中で分解する植物性プラスチックを使った歯ブラシの開発も進めている。

歯ブラシのOEM（相手先ブランドによる生産）国内最大手、ヤマトエスロン（大阪府八尾市）は2019年中に、全ての歯ブラシの容器を環境に配慮した素材に切り替える。年1億本以上の歯ブラシを生産。2〜3割のコスト上昇分は発注元と交渉して分担する。これまで日用品は価格重視だったが、消費者の環境

への関心の高まりに対応した商品が広がりそう

以上加える。石油由来の原料が減る分、焼却時に発生する二酸化炭素（CO₂）の排出量が削減される。現在は全商品の約3割を環境対応に切り替

えており、松下俊治社長は「これまでコストの増加を理由に環境対応を断られることがあったが、最近では取引先が積極的に